

令和 8 年度 福岡市 英語教育改善プラン

目標

主体的にコミュニケーションを行い、他者と協働しながらよりよい社会を切り拓く
福岡市の子どもたちの育成

☒ 言語活動
 ☒ 指導と評価の一体化
 ☐ 教師の英語力・指導力
 ☐ 校種間連携
 ☐ ALTの参画
 ☒ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☐ その他

(パフォーマンステスト含む)

(専科教員含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ① CAN-DOリスト形式による学習到達目標を全学校で設定している。
令和 6 年度 100%
令和 7 年度 100%

- ① 言語活動のさらなる充実に向けた授業改善が必要である。

- ② 児童の学習者用デジタル教科書の活用について、学校間の差が見られる。

未だ改善が必要な点

2. 要因分析

- ① 教育課程説明会をはじめ校内外研修、報告書の提出を示したことで、学習到達目標を理解し、共有できた。

- ① 校内外研修等を通して、外国語教育の目標やALTの効果的な活用については共有できているが、言語活動を通して指導することについて理解が十分ではない。

- ② 教師用デジタル教科書の提示だけでなく、児童による活用について、実践例が少なく周知や共有が十分ではない。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ① CAN-DOリスト形式による学習到達目標の活用の推進

- ・ 6 月に CAN-DOリストの活用調査を行う。
- ・ CAN-DOリスト活用についての研修を行う。
- ・ 文部科学省作成の手引きの周知を行う。

- ① 言語活動の充実に向けた授業改善の推進

- ・ 4 月・7 月にある英語専科教員や外国語担当教員の研修等で指導助言を行う。
- ・ 外国語教育における言語活動の在り方について、職員研修等を通して指導助言を行う。
- ・ 各小学校において小学校外国語活動・外国語支援事業による校内研修会の実施を通知し、指導助言を行う。

- ② 児童の学習者用デジタル教科書の活用の推進

- ・ 4 月の ICT 研修会で、生徒用デジタル教科書を活用した授業公開を行い、活用例について研修を行う。
- ・ 7 月の外国語担当教員等研修で、モデル校や実践例について周知する。
- ・ 校内研修等での活用について周知する。

令和 8 年度 福岡市 英語教育改善プラン

目標

主体的にコミュニケーションを行い、他者と協働しながらよりよい社会を切り拓く
福岡市の子どもたちの育成

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合（R7：65.6%⇒R8：68%）

☒ 言語活動 ☐ 指導と評価の一体化 ☐ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☒ ALTの参画 ☒ ICTの活用 ☒ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合が、高い水準を保っている。

(R6:65.9%⇒R7:65.6%)

②R6全国学力・学習状況調査の質問調査の結果から、話すこと（発表）の言語活動の増加が見られる。

(R5:81.2%⇒R6:85.3%)

①授業でのICT活用について、端末を活用した発表・やり取りの割合が減少した。

(R5:98.6%⇒R6:97.1%)

②授業でのICT活用について、発話や発音などの録音・録画をしている学校の割合が減少した。

(R6:84.1%⇒R7:74.3%)

未だ改善が必要な点

2. 要因分析

①毎年、中3対象に、英語チャレンジテスト（英検IBA）を実施し、授業改善につながり、英語力が向上したと考えられる。

②ALTの活用や、福岡市英語スピーチコンテストの開催等で、言語活動の充実を図る取り組みを行っている。

①②授業でのICT活用について、学校間の差が見られる。また、活用例などの研修が少ないことが要因と考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

② ALT参画の推進

- ・10月の公開授業研修会で、ALTと共に、言語活動を充実させた授業改善を提示する。
- ・2月のALT配置説明会で、授業でのALT活用事例を提示し、授業内外問わない活用を促す。
- ・福岡市主催のスピーチコンテストについて、4月の事業説明会でALTを含めた全英語科教員の指導方法について研修を行う。

① ICT活用の推進

- ・4月のICT研修会で、生徒用デジタル教科書を活用した授業公開を行い、活用例について研修を行う。
- ・4月・7月に学習ドリルアプリ講習会を実施し、授業への導入の仕方を提示する。

② AIを活用した英語教育の推進

- ・AIアプリを活用することで、英語を「話す」「聞く」などの言語活動のさらなる充実を図り、生徒の英語力の向上を目指す。
- ・モデル校（中学校5校）の中学校2年生の一人一台端末にAIアプリを導入し、英語の授業や家庭学習に活用する。
- ・AI相手に、英語で即興的な会話のやり取りをする活動を展開する。
- ・モデル校での活用事例を集め、効果検証を行う。

令和 8 年度 福岡市 英語教育改善プラン

目標

グローバル社会における人材育成のため、授業改善と教師の英語指導力の育成の推進
○CEFR A2/B1レベル（R7：A2以上42.5%、B1以上15.4% ⇒ R8：A2以上50.0%、B1以上20.0%）相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合

- ☐ 言語活動 ☐ 指導と評価の一体化 ☒ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☐ ICTの活用 ☒ AIの活用 ☐ その他
- (パフォーマンステスト含む) (専科教員含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

①英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている学校の割合の増加
(R6:39.3%⇒R7:60.7%)

②CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の増加
(R6:13.7%⇒R7:15.4%)

①CEFR B2以上を取得している教師の割合

・全体 R6:85.0% ⇒ R7:90.2%

②グローバル社会における人材育成

CEFR A2レベル相当以上生徒
・全体R6:50.0% R7:42.5%

2. 要因分析

①②
平成30年告示学習指導要領で求められる英語指導について、理解の深まり、指導方法の改善

英語の授業におけるICT機器（生成AIの活用含む）の活用

①生徒の実態に合わせた、4 技能の向上のための現状理解と取組み、授業改善がやや不十分

②特にグローバルに活躍することが期待される層の拡充について、個別最適化された指導の取組みの少なさ

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①②
(1)全ての英語科目における生徒の主体的な言語活動の推進
- (2)ICT機器を活用した、生徒の主体的・対話的で協働的な学びのさらなる推進
- (3)生成AIを活用した個別最適化された指導の充実（令和8年度より、研究グループを創設）
- ①
(1)民間教育機関に教員を派遣し、教員の指導力向上
- (2)高等学校一斉基本研修、教育課程研究集会等での指導方法の事例共有
- ②
(1)第4期教育振興基本計画「グローバル社会における人材育成」について、内容の周知と目標設定
- (2)各学校における国際交流や海外研修等（対面・オンライン両方）の積極的な実施。英語を使用した異文化交流機会の創出と内容の充実。

福岡市教育委員会

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	55	41.5	45	50	50	42.5	50		55		
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	20	14	18	13.7	22	15.4	20		22		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	70	53.6	55	46.4	58		59		60		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合(%)	85	60	62	28.6	63		64		65		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	70	0	40		50		60		70	
		公表(%)	70	0	20		3		40		50	
		達成状況の把握(%)	50	0	20		30		40		50	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	95	97.5	98	85	98	90.2	95		98		
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合(%)	75	11.1	15	39.3	25	60.7	30		40		

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)		70	65.1	70	65.9	75	65.6	68		80	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)		72	67.5	75		75		80		80	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合(%)		100	82.5	100		100		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	40	53.6	60		60		70		70	
		達成状況の把握(%)	80	75.4	80		80		90		90	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)		55	35.9	55	40.1	55	49.1	55		55	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合(%)		80	47.6	80		80		80		80	

			2023		2024		2025		2026		2027	
校種		指標内容	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	60	52.1	60		60		60		60	
		達成状況の把握(%)	90	88.2	90		90		90		90	